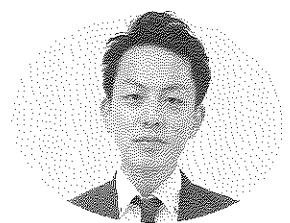


若手教員実践記録 優秀実践賞受賞作品



生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合う

高い自己肯定感を高め、互いに認め合う

個を生かす指導と、

互いに認め合う場面設定を通して

利根町立利根中学校 教諭 高 橋 瑞 樹

1 主題設定の理由

教員として担任になり、今年で7年目となる。これまでの学級経営を通して、指示をしないと動けない生徒や、学級集団の一員としての自覚・感覚をもてずに生活をする生徒が多いと感じていた。自分の目指す学級像は「生徒一人ひとりが自信をもち、生徒自身で互いに認め合い、支え合うことができる学級」である。そのため大切なことは、学級の一人ひとりに目を向け、実態を把握し、個を生かす場面を設定する支援を行い、自己肯定感を高めることであると考える。その上で、互いの活躍を認め合う場面を設定

することで、個を生かす指導として成長ができるようになる。また、個に目を向けた上で、互いを認め合う場面設定することで個の成長、学級の成長につながると考え、本主題を設定した。

2 主題に迫るために

(1) 基本的な考え方

自己肯定感とは、自分を客観視して他者との違いを理解し、「自分は自分でよい」と自身を認めて受け入れる感覚であると考える。

(2) 実態調査

資料1は、令和元年度7月のQ-Uテストの結果である。

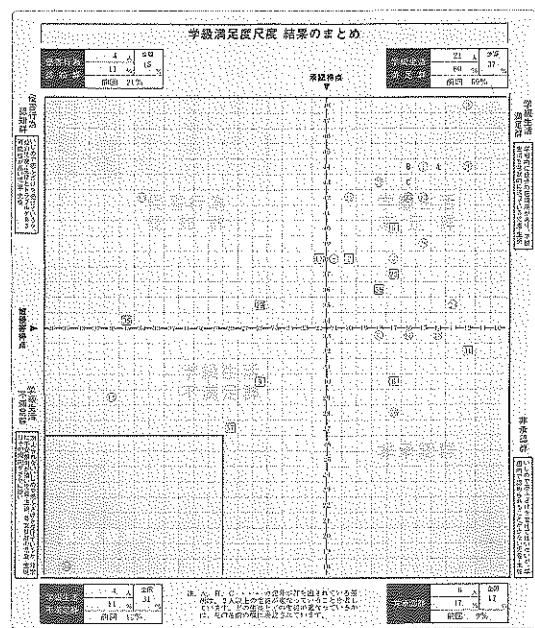
左下の学級生活不満足群に属している生徒は、静かで自分の意見をあまり表に出さない傾向であった。家庭環境が複雑、過去に友達関係のトラブルが多い生徒達が属していることを読み取ることができた。また、非承認群で満足群に入りそうな生徒は、いずれも実行委員など経験している生

個を生かす指導とは、客観的なデータや日常における様々ななかかわりから生徒一人ひとりを理解し、必要な支援を行うことで、生徒の自己肯定感を高め、主体的に行動できるようになることである。主体的に行動できるようになると、自分の行動が「周囲の役に立っている」と感じ、そして自分の行動が「周囲によい影響を与えている」と感じるようになり、さらに主体的に行動するようになると考える。

活躍を認め合う場面とは、教師から生徒、または生徒同士が友達の活躍を伝え合い、共有する場面である。自分の行動を友達に認められることで、行動の価値付けがされて自己肯定感が高まると考える。

行動の価値付けとは、生徒が行った行動そのものを教師、または生徒同士で肯定的にフィードバックしていくことである。学級において、どの行動にどのような価値があるのかを教師と生徒が共有することで、自分の行動に肯定感を感じじることができる。どのような行動に価値があるかを見出すことができる生徒が育成できると考える。

肯定的フィードバックとは、生徒が行った行動に対して、肯定的な感想を伝えることである。自分の行動を客観的な目線で伝えられることと、肯定的な感想を伝えられることで自分の行動に自信をもつことができると考えた。



(資料1) Q-Uテスト 1回目

徒である。他のアンケートなどにも肯定的な回答をしていたため、普段の様子から予想できない結果だった。表面上では読み取ることが難しい実態を客観的なデータを分析し、把握することができた。

3 実践内容と結果

(1) 個を生かす指導

ア 個人面談の重視

日直は最後に戸締りをして、教室を出るという役割だが、その退出時に「お話タイム」という名で個人面談を実施している。学級日誌に面談用の用紙を付けておき、記入させ、それに基づいて行っている。この実践のよさは定期的に全員と面談できることである。内容は、主に普段行っている行動を肯定的フィードバックしている。また、放課後だからこそ「この教科が分からない」、「友達・部活で悩んでいる」、「家でうまくいっていない」など普段言いづらい内容の話をする生徒がいて、生徒理解に役立てた。

イ 学級目標の活用

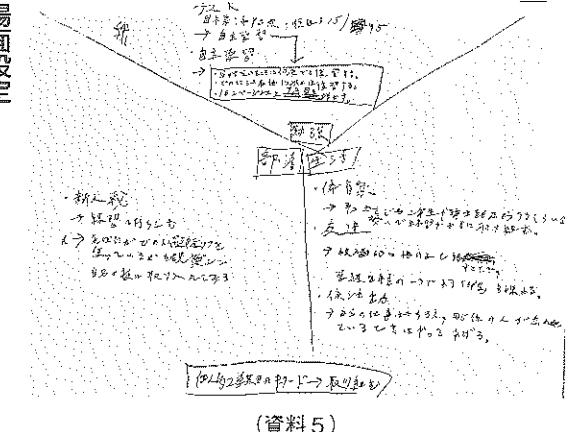
学級目標を決める際に、教師が求めている学級像を全体に伝えている。その上で生徒に資料2のように、よい学級になるための行動を考え、行動の価値付けをする。それらダーツippyの育成を図っている。

学級目標振り返りシート	
1月 1日	11歳
Wheels (ワーズ)	
1. 朝ごはん	○
2. 着替り	○
3. 整理	○
4. 飲食	○
5. お手洗い	○
6. おやつ	○
7. お風呂	○
8. お寝かせ	○
9. おでかけ	○
10. おやじさん	○
11. おやじさん	○
12. おやじさん	○
13. おやじさん	○
14. おやじさん	○
15. おやじさん	○
16. おやじさん	○
17. おやじさん	○
18. おやじさん	○
19. おやじさん	○
20. おやじさん	○
21. おやじさん	○
22. おやじさん	○
23. おやじさん	○
24. おやじさん	○
25. おやじさん	○
26. おやじさん	○
27. おやじさん	○
28. おやじさん	○
29. おやじさん	○
30. おやじさん	○
31. おやじさん	○
32. おやじさん	○
33. おやじさん	○
34. おやじさん	○
35. おやじさん	○
36. おやじさん	○
37. おやじさん	○
38. おやじさん	○
39. おやじさん	○
40. おやじさん	○
41. おやじさん	○
42. おやじさん	○
43. おやじさん	○
44. おやじさん	○
45. おやじさん	○
46. おやじさん	○
47. おやじさん	○
48. おやじさん	○
49. おやじさん	○
50. おやじさん	○
51. おやじさん	○
52. おやじさん	○
53. おやじさん	○
54. おやじさん	○
55. おやじさん	○
56. おやじさん	○
57. おやじさん	○
58. おやじさん	○
59. おやじさん	○
60. おやじさん	○
61. おやじさん	○
62. おやじさん	○
63. おやじさん	○
64. おやじさん	○
65. おやじさん	○
66. おやじさん	○
67. おやじさん	○
68. おやじさん	○
69. おやじさん	○
70. おやじさん	○
71. おやじさん	○
72. おやじさん	○
73. おやじさん	○
74. おやじさん	○
75. おやじさん	○
76. おやじさん	○
77. おやじさん	○
78. おやじさん	○
79. おやじさん	○
80. おやじさん	○
81. おやじさん	○
82. おやじさん	○
83. おやじさん	○
84. おやじさん	○
85. おやじさん	○
86. おやじさん	○
87. おやじさん	○
88. おやじさん	○
89. おやじさん	○
90. おやじさん	○
91. おやじさん	○
92. おやじさん	○
93. おやじさん	○
94. おやじさん	○
95. おやじさん	○
96. おやじさん	○
97. おやじさん	○
98. おやじさん	○
99. おやじさん	○
100. おやじさん	○
101. おやじさん	○
102. おやじさん	○
103. おやじさん	○
104. おやじさん	○
105. おやじさん	○
106. おやじさん	○
107. おやじさん	○
108. おやじさん	○
109. おやじさん	○
110. おやじさん	○
111. おやじさん	○
112. おやじさん	○
113. おやじさん	○
114. おやじさん	○
115. おやじさん	○
116. おやじさん	○
117. おやじさん	○
118. おやじさん	○
119. おやじさん	○
120. おやじさん	○
121. おやじさん	○
122. おやじさん	○
123. おやじさん	○
124. おやじさん	○
125. おやじさん	○
126. おやじさん	○
127. おやじさん	○
128. おやじさん	○
129. おやじさん	○
130. おやじさん	○
131. おやじさん	○
132. おやじさん	○
133. おやじさん	○
134. おやじさん	○
135. おやじさん	○
136. おやじさん	○
137. おやじさん	○
138. おやじさん	○
139. おやじさん	○
140. おやじさん	○
141. おやじさん	○
142. おやじさん	○
143. おやじさん	○
144. おやじさん	○
145. おやじさん	○
146. おやじさん	○
147. おやじさん	○
148. おやじさん	○
149. おやじさん	○
150. おやじさん	○
151. おやじさん	○
152. おやじさん	○
153. おやじさん	○
154. おやじさん	○
155. おやじさん	○
156. おやじさん	○
157. おやじさん	○
158. おやじさん	○
159. おやじさん	○
160. おやじさん	○
161. おやじさん	○
162. おやじさん	○
163. おやじさん	○
164. おやじさん	○
165. おやじさん	○
166. おやじさん	○
167. おやじさん	○
168. おやじさん	○
169. おやじさん	○
170. おやじさん	○
171. おやじさん	○
172. おやじさん	○
173. おやじさん	○
174. おやじさん	○
175. おやじさん	○
176. おやじさん	○
177. おやじさん	○
178. おやじさん	○
179. おやじさん	○
180. おやじさん	○
181. おやじさん	○
182. おやじさん	○
183. おやじさん	○
184. おやじさん	○
185. おやじさん	○
186. おやじさん	○
187. おやじさん	○
188. おやじさん	○
189. おやじさん	○
190. おやじさん	○
191. おやじさん	○
192. おやじさん	○
193. おやじさん	○
194. おやじさん	○
195. おやじさん	○
196. おやじさん	○
197. おやじさん	○
198. おやじさん	○
199. おやじさん	○
200. おやじさん	○
201. おやじさん	○
202. おやじさん	○
203. おやじさん	○
204. おやじさん	○
205. おやじさん	○
206. おやじさん	○
207. おやじさん	○
208. おやじさん	○
209. おやじさん	○
210. おやじさん	○
211. おやじさん	○
212. おやじさん	○
213. おやじさん	○
214. おやじさん	○
215. おやじさん	○
216. おやじさん	○
217. おやじさん	○
218. おやじさん	○
219. おやじさん	○
220. おやじさん	○
221. おやじさん	○
222. おやじさん	○
223. おやじさん	○
224. おやじさん	○
225. おやじさん	○
226. おやじさん	○
227. おやじさん	○
228. おやじさん	○
229. おやじさん	○
230. おやじさん	○
231. おやじさん	○
232. おやじさん	○
233. おやじさん	○
234. おやじさん	○
235. おやじさん	○
236. おやじさん	○
237. おやじさん	○
238. おやじさん	○
239. おやじさん	○
240. おやじさん	○
241. おやじさん	○
242. おやじさん	○
243. おやじさん	○
244. おやじさん	○
245. おやじさん	○
246. おやじさん	○
247. おやじさん	○
248. おやじさん	○
249. おやじさん	○
250. おやじさん	○
251. おやじさん	○
252. おやじさん	○
253. おやじさん	○
254. おやじさん	○
255. おやじさん	○
256. おやじさん	○
257. おやじさん	○
258. おやじさん	○
259. おやじさん	○
260. おやじさん	○
261. おやじさん	○
262. おやじさん	○
263. おやじさん	○
264. おやじさん	○
265. おやじさん	○
266. おやじさん	○
267. おやじさん	○
268. おやじさん	○
269. おやじさん	○
270. おやじさん	○
271. おやじさん	○
272. おやじさん	○
273. おやじさん	○
274. おやじさん	○
275. おやじさん	○
276. おやじさん	○
277. おやじさん	○
278. おやじさん	○
279. おやじさん	○
280. おやじさん	○
281. おやじさん	○
282. おやじさん	○
283. おやじさん	○
284. おやじさん	○
285. おやじさん	○
286. おやじさん	○
287. おやじさん	○
288. おやじさん	○
289. おやじさん	○
290. おやじさん	○
291. おやじさん	○
292. おやじさん	○
293. おやじさん	○
294. おやじさん	○
295. おやじさん	○
296. おやじさん	○
297. おやじさん	○
298. おやじさん	○
299. おやじさん	○
300. おやじさん	○
301. おやじさん	○
302. おやじさん	○
303. おやじさん	○
304. おやじさん	○
305. おやじさん	○
306. おやじさん	○
307. おやじさん	○
308. おやじさん	○
309. おやじさん	○
310. おやじさん	○
311. おやじさん	○
312. おやじさん	○
313. おやじさん	○
314. おやじさん	○
315. おやじさん	○
316. おやじさん	○
317. おやじさん	○
318. おやじさん	○
319. おやじさん	○
320. おやじさん	○
321. おやじさん	○
322. おやじさん	○
323. おやじさん	○
324. おやじさん	○
325. おやじさん	○
326. おやじさん	○
327. おやじさん	○
328. おやじさん	○
329. おやじさん	○
330. おやじさん	○
331. おやじさん	○
332. おやじさん	○
333. おやじさん	○
334. おやじさん	○
335. おやじさん	○
336. おやじさん	○
337. おやじさん	○
338. おやじさん	○
339. おやじさん	○
340. おやじさん	○
341. おやじさん	○
342. おやじさん	○
343. おやじさん	○
344. おやじさん	○
345. おやじさん	○
346. おやじさん	○
347. おやじさん	○
348. おやじさん	○
349. おやじさん	○
350. おやじさん	○
351. おやじさん	○
352. おやじさん	○
353. おやじさん	○
354. おやじさん	○
355. おやじさん	○
356. おやじさん	○
357. おやじさん	○
358. おやじさん	○
359. おやじさん	○
360. おやじさん	○
361. おやじさん	○
362. おやじさん	○
363. おやじさん	○
364. おやじさん	○
365. おやじさん	○
366. おやじさん	○
367. おやじさん	○
368. おやじさん	○
369. おやじさん	○
370. おやじさん	○
371. おやじさん	○
372. おやじさん	○
373. おやじさん	○
374. おやじさん	○
375. おやじさん	○
376. おやじさん	○
377. おやじさん	○
378. おやじさん	○
379. おやじさん	○
380. おやじさん	○
381. おやじさん	○
382. おやじさん	○
383. おやじさん	○
384. おやじさん	○
385. おやじさん	○
386. おやじさん	○
387. おやじさん	○
388. おやじさん	○
389. おやじさん	○
390. おやじさん	○
391. おやじさん	○
392. おやじさん	○
393. おやじさん	○
394. おやじさん	○
395. おやじさん	○
396. おやじさん	○
397. おやじさん	○
398. おやじさん	○
399. おやじさん	○
400. おやじさん	○
401. おやじさん	○
402. おやじさん	○
403. おやじさん	○
404. おやじさん	○
405. おやじさん	○
406. おやじさん	○
407. おやじさん	○
408. おやじさん	○
409. おやじさん	○
410. おやじさん	○
411. おやじさん	○
412. おやじさん	○
413. おやじさん	○
414. おやじさん	○
415. おやじさん	○
416. おやじさん	○
417. おやじさん	○
418. おやじさん	○
419. おやじさん	○
420. おやじさん	○
421. おやじさん	○
422. おやじさん	○
423. おやじさん	○
424. おやじさん	○
425. おやじさん	○
426. おやじさん	

をやつてみたいか、これからかわつてみたい人、学級で活躍した人などを書かれている。アンケートに名前が上がらなかつた生徒にも目を向けるため、相談したいことや最近の学級の様子も書かせている。班長をやつてみたい人や、リーダーシップが育つてきた人を分けて配置することで、個を生かせるようにした。席替えを意図的に行うことで、班長を担う生徒が増えたり、立候補する生徒が増えたりしている。

力 話し合い活動の充実

話し合い活動は、自分の意見を他者に伝える力や、人の話を聞く力を身に付けるために大切である。自分の意見を他者に受け入れてもらうことで、自分の考えに自信が付いて、自分を表現できるようになる。年度初めになぜ話し合いが大切で、なぜ意見を言う、聞くことが大切かという行動の価値付けを行う。その後、話し合いマニュアルを学級で作成して、全体で共有する。そのマニュアルを基に、毎回学活の開始5分は話し合い活動の時間を設けている。始めは、「もし無人島に行つたら何を持つていくか?」のような誰でも参加できるような題材にした。話し合いを重ねるにつれて、自分の考えをもつて他者に伝えることができるようになってきた。学級会では1時間で、全員の生徒が



(資料5)

して活用させることで、「一人ひとりがもつ自分の考えを表現することができている。4月の学期の目標を1時間かけても1文字も書くことができなかつた生徒がいた。2学期の目標には、資料5のように思考ツールを用いて、自分の力のみで作文を完成させることができるようになった。苦手な生徒だけではなく、全生徒に思考ツールを紹介して使用することと、自分の考えを整理したり、表現したりすることができるようになつた。慣れてくれるとなぞれ、自身で思考ツールを選択して、使うことができるようになつた。

(2) 活躍を認め合う場面設定

ア 朝の黒板メッセージ

毎朝、黒板に生徒へのメッセージを書いている。内容は

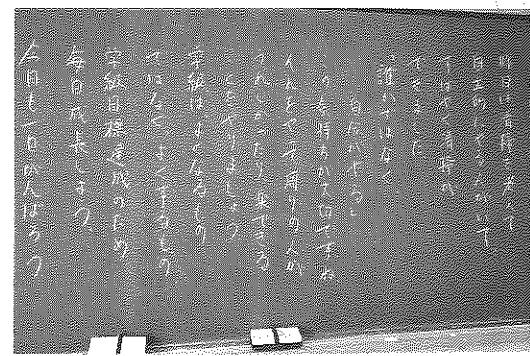
発表をすることができるようになった。

キ 考え、議論する道徳の実践

道徳では、正しい解答を探すことより、自分事として考え、考えを周囲に伝えるように年度初めに価値付けを行つた。そして、道徳では学活の時間以上に他者の話を聞くこと、自己と他者の違いを理解して、他者の考えを認めることを重視した。発表時間を確保するため、発表方法は発表をする生徒が指名されず自身で起立して、自分の考えを表現している。その結果、一人ひとりが自分の意見をもつて、他者と話し合うようになった。また、発表では次々に自ら起立して自分の意見を周囲に伝えている。同時に立つた際には、譲り合つて途切れさせることなく発表が続いた。道徳の時間が楽しい、1番大事な教科ではないかという生徒が増えている。今年度の文化祭の有志発表において、学級の生徒数名が全校生徒の前で、道徳の授業を行う計画を立てている。

ク 思考ツールの活用

学活や道徳において、自分の考えを整理するために思考ツールを活用している。自分の考えをもつていても考えを整理することが苦手だったり、書くことが苦手だったりする生徒がいる。その生徒に応じて必要な思考ツールを提示している。



(資料6) 每朝の黒板メッセージ

生徒の良い行動や、生徒に考えさせたいことやこうしてほしいことなどを書いている。良い行動を行つたことへの肯定的フィードバックをして、何がどのようにも良かつたのか理解し、活躍を全員で共有できるようにしている。学級目標で決めた際に価値付けした行動と照らし合わせて書くことで、生徒自身もなぜ良かつたのか理解することができた。これによつて、学級目標を意識し、主体的に考え、よい学級にするための行動をとることができるようになつた。

イ 帰りの会の有効的な活用

帰りの会で生活班の班長が、活躍した班のメンバーを一人紹介する「今日のヒーロー」をいう取り組みを続けてい。年度初めは抽象的なものが多かつたが、教師が日直を

取り上げてグッドモデルを提示するなど指導を続けた。3週間目には具体的になり、生徒同士の肯定的ファイードバックをする場面になつていった。慣れてくると、「複数名活躍した人を発表してもいいですか」と尋ねる生徒や、休み時間のたびに活躍をメモする生徒が出てきた。結果的に昨年度の学級では、9月には班長が全員の活躍を紹介する学級となつた。言われた生徒は照れくともうに笑つっていたり、周囲から「おー、すごい」、「ありがとう」などの声が聞こえたりと温かい雰囲気になつた。

ウ 学級通信の発行

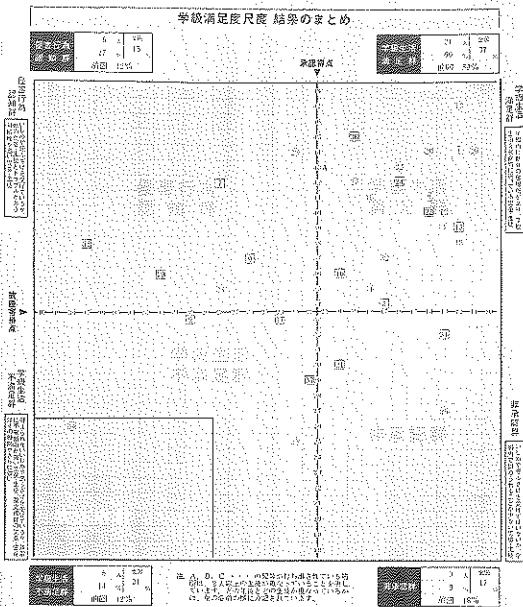
学級通信は、週2・3回のペースで出している。タイトルは全員の名前を定期的に出すため、生徒が書いたものを使用している。内容は学活、道徳の時間に書いた生徒の考えや振り返りを取り上げて紹介したり、生徒が学級や友達のために行つた場面の写真を取り上げたりしている。生徒自身の活躍を友達や保護者に伝えて共有するツールとして使つている。できる限り生徒の氏名、発言、記述を書いて肯定的なファイードバックも行つていている。配付するタイミングは、生徒が読むことができる時間を確保できるように配付している。それにより、ほとんどの生徒が配付されるとすぐに読んでいる。学級通信に取り上げられた生徒は、さ

述するようになつた。

4 実践の成果と今後の課題

(1) 成果

個を生かす指導をするため、一人ひとりの自己肯定感を高めることは有効であった。普段見ることができない生徒の内面的な部分をQ-Uテストや個人面談を通して、理解

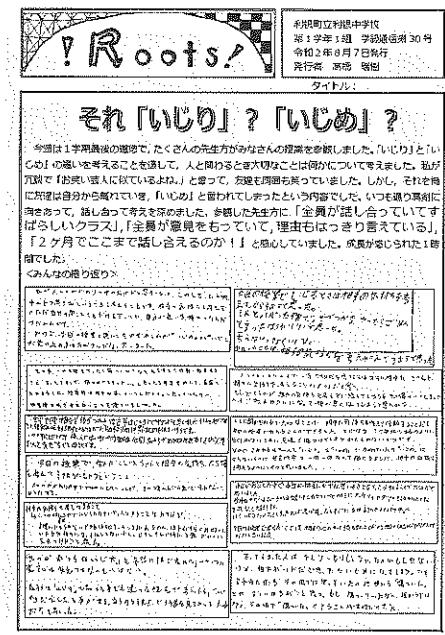


(資料8) Q-Uテスト2回目

することができた。多面的に生徒理解をしたことで、一人ひとりに必要な役割や支援を考えて実行できた。自己肯定感が高まり、周囲へ貢献をしようという気持ちになり、生徒自身で「自分には何ができるか」を考えることができるようになった。学級での話し合いや、生活でも学級委員だけでなくお互いに呼び掛け、係以外の仕事を見付けて行うなど自分の力を發揮しようとする生徒が増えた。各教科での話し合い活動では、全員が参加するだけではなく、自分の考えを発表しようとする生徒が増えていった。

活躍を認め合う場面設定は、自己肯定感を高め、互いに認め合い支え合う学級になるため有効であった。行動の価値付けをした上で、活躍を肯定的にファイードバックすることで、自分の行動が他者にどのような影響を与えていくか理解することができていた。朝の黒板や今日のヒーローなどを毎日行うことで、学級全体で認め合うことが日常の中に定着していく。9・10月になると「ありがとう」、「やつておくよ」など声を掛け合う場面が増えて、それが学級の当たり前のことになつていった。そのことを教師が取り上げることで、さらに認め合う場面や支え合う場面が増えていくた。

行動の価値付けは、自己肯定感を高めて、互いに認め合



(資料7) 生徒の記述を用いた学級通信

うことに有効であった。学級の中で何を大切にするか教師と生徒が共有することで、肯定的フィードバックをした際に自己肯定感を高め、相手の活躍を認め合う際の指標となつた。また、生徒自身で行動の価値付けを初めにしたことで、目指す目標を意識して行動することができた。

肯定的フィードバックは、自己肯定感を高めるために有効であった。自分の行動に目を向けることができない生徒が多かつた。肯定的フィードバックをすることで自分の行った行動を客観的に見ることができた。さらに、どのような影響を与えたのかを考える機会を作り、自分の行動が周囲に与える影響を認識させることができた。自分の行動に自信をもつことができる生徒が増え、主体的に動ける生徒が増えた。1年生の時に「前に出ている人は、すごい」と言っていた生徒に「すごいと言えるあなたもすごい」と伝えた生徒は、3年生では、全体の前に立つようになつていていた。肯定的フィードバックを繰り返したことでの自己肯定感が高まつたと考えられる。

様々な手立てを講じ、昨年度12月は資料8のような結果になつた。7月で非承認群にいた3人の生徒は、満足群に属すことができた。不満足群にいた生徒は、右上に近付いた。全体としても右上に分布することができた。

(2) 課題

課題は、生徒理解の際に自分の認識だけで支援を立てる、その生徒に対する支援が正しいかどうか判断することが難しいことである。他の先生方と共に理解を図り、さらに多面的な見方をすることでより手立てを見付けることができるを考える。また、行動の価値付けが教師の押し付けになつていなかということである。普段からこうなつてほしいという期待から押し付けになつていなか自問自答している。生徒と対話をしながら、共に学級を運営するという視点を忘れてはいけないと感じた。

